

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	リハビリテーション概論		必修	1年前期	20コマ・40時間
担当教員	佐々木、藤田、熊本 菅原、井上、竹谷、品川		背景	全員実務経験教員、10年以上	
授業形態	講義		実務家教員 である		
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	なし				
授業概要 リハビリテーションの理念や諸外国と我が国のリハビリテーションの歴史、分野、手段について学ぶとともに、我が国のリハビリテーションの現状についても学び、理解を深める。					
狙いと到達目標 ・リハビリテーションの理念、諸外国と我が国のリハビリテーションの歴史、分野、手段について理解ができるようになる。 ・リハビリテーション・サービスに携わる専門職としての知識を身につけることができる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 養護学校の教員の経験(病弱養護学校に2年、知的障害の養護学校に1年)を活かし、教育現場におけるリハビリテーションの実際を、実践を交えながら講義や演習の中に活かしていく。また、認知症高齢者のグループホームの立ち上げにも携わった経験から、高齢者におけるリハビリテーションの重要性等を実践を交えながら併せて講義や演習の中において活かしていく。					
授業計画・内容 (授業の順番は変更になることがあります)					
1	リハビリテーションの理念・歴史について(我が国・諸外国) 藤田				
2	「リハビリテーションの理念・歴史について」を踏まえた議論・ディスカッション 藤田				
3	リハビリテーションの分野・手段について(我が国・諸外国) 藤田				
4	理学療法サービス 理学療法とその実際① 竹谷				
5	理学療法サービス 理学療法とその実際② 竹谷				
6	理学療法サービス 理学療法とその実際③ 竹谷				
7	看護師から見るリハビリテーション 熊本				
8	看護師から見るリハビリテーション 熊本				
9	看護師から見るリハビリテーション 熊本				
10	言語聴覚療法サービス 言語療法とその実際① 井上				
11	言語聴覚療法サービス 言語療法とその実際② 井上				
12	「リハビリテーションの分野・手段について」を踏まえた議論・ディスカッション 藤田				
13	介護福祉士から見るリハビリテーション 品川				
14	介護福祉士から見るリハビリテーション 品川				
15	リハビリテーションの変遷と現状について(我が国・諸外国) 藤田				
16	医師から見るリハビリテーション 菅原				
17	医師から見るリハビリテーション 菅原				
18	「リハビリテーションの変遷と現状について」を踏まえた議論・ディスカッション 藤田				
19	障害受容を考える 佐々木				
20	まとめ 佐々木				
評価方法	レポート課題、振り返りシート等にて評価				
自由記述 (メッセージ)	活字離れが指摘されている現代、新聞などで、活字に触れ、常に社会の情勢について目配り、気配りできるように心がけて日常生活を送るように心がけてほしい。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	作業療法概論		必修	1年前期	10コマ・20時間
担当教員	中村 由美	背景	作業療法士歴15年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準作業療法学専門分野 作業療法概論 第4版 医学書院				
授業概要 作業療法を行うために必要な最低限の知識を学ぶ。これにより、作業療法士を目指す者としての自覚を養い、在学中に学習する科目への基本的理解を備える。					
狙いと到達目標 作業療法の概要を理解し、説明できる ① 作業療法の歴史的経緯、定義、倫理規定などを理解する。 ② 作業分析と治療への適用、理論との関係を理解できる。 ③ 作業療法の一連の過程を説明できる。 ④ 作業療法の実際について、事例を通して理解する。					
授業において実務経験をどのように生かすか 身体障害領域、高齢期領域での実践の経験から、実際の作業療法をイメージできるよう伝えることができる。					
授業計画・内容					
1	オリエンテーション 作業療法の定義・原理・歴史(教科書P3-26)				
2	作業療法に関連する予備知識・実践現場(教科書P27-48)				
3	作業療法士の資質と適性・医療倫理(教科書P87-96)				
4	作業の分析(教科書P51-62)				
5	作業療法の理論(教科書P74-83) ICF(教科書P30-32、146-147)				
6	作業療法の実践過程(教科書P147-161)				
7	身体障害領域の作業療法(教科書P169-181)				
8					
9	精神機能領域の作業療法(教科書P182-P195) 加藤先生				
10	まとめ				
評価方法	筆記試験80% 提出物(全10回)20%				
自由記述 (メッセージ)	教科書の該当ページを読んでから参加してください。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	基礎作業学		必修	1年後期	10コマ・20時間
担当教員	加藤 和貴	背景	作業療法士 23年目		
授業形態	講義・演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	日常生活における作業を意識しておく				
教科書等	ひとと作業・作業活動 新版 三輪書店 参考書:「作業」って何だろう 第二版 作業科学入門 医歯薬出版株式会社				
授業概要 作業療法において作業活動を治療・援助に活用するための基礎を学び、作業療法における作業について考える。					
狙いと到達目標 身近な作業について、分類や階層性を説明できる。 作業について、その意味を知り人間の発達や生活との関わりを説明できる 作業療法の援助技術としての指導法の基礎を説明できる					
授業において実務経験をどのように生かすか 対象者について考える上で、対象者を作業的存在としてとらえる大切さを実務経験から学んだ。その為の一般的な作業を作業療法の視点で捉える要点を提示していく。					
授業計画・内容					
1	作業学総論「作業って何？」授業概要の説明、作業の定義・分類を知る				
2	人と作業 (1) 作業の種類と構成を理解する①				
3	作業の種類と構成を理解する②				
4	人と作業 (2) 作業を分析的な視点から考える①				
5	人と作業 作業を分析的な視点から考える②				
6	作業の効果と治療的応用 作業の持つ効果と適応について学ぶ				
7	身近な作業について考える 作業効率と工夫について				
8	学習理論①				
9	学習理論②				
10	まとめ 質疑応答				
評価方法	筆記テスト				
自由記述 (メッセージ)	人間は作業的存在といわれます。作業療法では人は「～する存在」と捉えます。皆さんは今朝からこの文章を読むまでどんなことをしてきましたか？いくつかの作業をしてきたのではないのでしょうか。まずは身の回りのことから「作業」というものについて考えていきたいと思えます。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	基礎作業学実習 I		必修	1年通年	30コマ・60時間
担当教員	高橋瑛彦・若松美佐子 青木量二	背景	作業実績30年以上		
授業形態	実技	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	特になし				
授業概要					
基礎作業学で学ぶ内容を基本において、作業療法的手段として用いられる代表的な種目に関して、具体的にその手順・工程を実習し、その基本を学ぶ。					
狙いと到達目標					
技法の基本(特性、必要な身体機能・精神機能、材料・器具の特徴と使用法など)を学ぶと共に、課題作品の制作プロセスを大切に完成させて得られる達成感を体験する。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
長年の制作活動で得た知識、技術を分かりやすく言葉と実践を交え伝える。実習に臨む心構えとしては失敗を恐れることなく挑戦する姿勢で実習する。自らの失敗経験や成功実体験を多く語り、緊張感の中にも和める講座づくりを目指す。					
授業計画・内容					
1・2	陶芸①講義: やきものとは、土、釉薬、焼成、作業工程、道具について				
3・4	陶芸②実習: 成形作業(玉づくり、紐づくり、たたらづくり)削り、加飾				
5・6	陶芸③実習: 成形作業(玉づくり、紐づくり、たたらづくり)削り、加飾				
7・8	陶芸④電動ろくろ成形、素焼き窯詰め作業				
9・10	陶芸⑤素焼き窯出し。釉薬の掛け方。絵付け等の加飾。施釉後の作品の扱い方。				
11	陶芸⑥窯出し、総評、個々の作品への評。				
12・13	織物①テーブルセンター・絵織り				
14・15	織物②テーブルセンター・絵織り				
16・17	織物③テーブルセンター・絵織り				
18・19	織物④織物の歴史と道具・織物の概略と設計・経糸の機掛け				
20・21	織物⑤テーブルセンター・絵織り(仕上げ)				
22・23	木工①木の特徴と道具(鋸、鉋、ノミ、糸鋸の使い方)				
24・25	木工②作品(設計)				
26・27	木工③作品(制作)				
28・29・30	木工④作品(仕上げ)				
評価方法	提出作品、レポート、出席状況による。				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	基礎作業学実習Ⅱ		必修	1年後期	30コマ・60時間
担当教員	佐々木康友・温井恵	背景	作業療法士歴18年		
授業形態	実技	実務家教員である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 作業学 改訂第2版 (メジカルビュー社)				
授業概要	革細工等の5種類の作業実習を行う。種目担当グループは準備から後片付けまでを行い、技法の基本を指導し、作業分析の結果を発表する。				
狙いと到達目標	作業療法的手段として用いられる種目に対してグループ担当授業を運営し、実際に他者に作業活動を指導することを通して、教授法を学び身につける。また、基礎作業学で学んだ内容を基に種目ごとに作業分析を行い、作業分析の基礎を身につける。				
授業において実務経験をどのように生かすか	対象者が作業に楽しく集中できるようにするための工夫(作業に対する理解を深めること、想像して準備をすること、実習中の配慮・心配り等々)や、作業分析の視点を現場に即して伝え、担当作業を運営する際の理解促進に生かす。				
授業計画・内容					
1～2	オリエンテーションとアクティビティの検討				
3～8	作業体験とその枠組み作り				
9～14	作業準備 (提供作業の選択、作業の特性・技法の理解、提供方法の検討、資料作り等)				
15～16	プレ発表(事前に模擬発表を行うことで、作業の見通しを立てる)				
17～18	作業種目①(担当グループが作業提供をし、指導運営する)				
19～20	作業種目②(担当グループが作業提供をし、指導運営する)				
21～22	作業種目③(担当グループが作業提供をし、指導運営する)				
23～24	作業種目④(担当グループが作業提供をし、指導運営する)				
25～27	作業分析発表準備 (作業の手順、道具材料、必要な感覚・認知・運動、心理、対人関係の側面等)				
28～29	作業分析発表				
30	個人レポート作成				
評価方法	担当した種目の準備・運営・指導(50%)、作業分析レポート(50%)				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	必修	1年 後期	30コマ・60時間	
担当教員	竹本龍太・山下久美子	背景	作業療法士歴11年		
授業形態	実技	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール・実習着ルール				
受講条件	ROMの授業時はゴニオメーター持参 *別途購入アナウンスを行います				
教科書等	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版 (医学書院) 新・MMT法 第10版 (協同医書出版) 筋肉のしくみ・はたらきパーフェクト辞典 (ナツメ社)				
授業概要 身体機能領域における作業療法評価学の基礎となる関節可動域測定(以下ROM)、徒手筋力検査(以下MMT)、バイタルサイン、形態測定の手順、留意点、記録方法、効果判定を動画予習による反転授業、学生2～3人1組の実技形式中心で学ぶ。「ROM」、「意識およびバイタルサイン、臨床検査値の読み方」「MMT」はそれぞれ小テスト(筆記)を実施する。					
狙いと到達目標 身体機能領域における作業療法評価学の基礎を学び、2年次で履修する各種疾患に対する評価方法習得へと繋げる。 ・関節の運動面と運動方向を理解し、説明することができる。 ・対象者の全身状態を把握するため、意識障害、バイタルサイン、異常検査値を見分けられる。 ・クラスメイトに「ROM」「MMT」「バイタルサインの測定」を実施し、その結果を記録できる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 病院(身体障害領域)での回復期、急性期、生活期の作業療法経験から教科書的知識と臨床場面での実情を織り交ぜながら伝えていく。					
授業計画・内容					
1	ROMの基礎知識と測定手順				
2	ROM(肩 屈曲/伸展、外転/内転)				
3	ROM(肩 外旋/内旋、水平屈曲/水平伸展)				
4	ROM (肘屈曲/伸展、前腕 回内/回外、肩甲帯 屈曲/伸展、挙上/引き下げ(下制))				
5	ROM(手関節 屈曲(掌屈)/伸展(背屈)、橈屈/尺屈、 指 MP屈曲/伸展、PIP屈曲/伸展、DIP屈曲/伸展、外転/内転)				
6	ROM (母指橈側外転/尺側内転、掌側外転/内転、MCP屈曲/伸展、IP屈曲/伸展)				
7	ROM(股 屈曲/伸展、外転/内転、外旋/内旋)				
8	ROM(膝 屈曲/伸展、足 底屈/背屈、足部 外/内がえし、外転/内転)				
9	ROM(頸部 屈曲(前屈)/伸展(後屈)、回旋、側屈)				
10	ROM(胸腰部屈曲(前屈)/伸展(後屈)、回旋、側屈)				
11	まとめ・小テスト(ROM)				
12	意識の評価および臨床検査値の読み方				
13	バイタルサインの測定(血圧、脈、呼吸、Spo2)				
14	形態計測				
15	まとめ・小テスト(意識およびバイタルサイン、臨床検査値の読み方)				

16	MMTの基礎知識と測定手順
17	MMT(肩 屈曲/伸展、外転)
18	MMT(回旋筋腱板、肩 外旋/内旋)
19	MMT(肩 水平外転/水平内転、肘屈曲/伸展)
20	MMT(前腕回外/回内、手関節屈曲/伸展)
21	MMT(PIPおよびDIP屈曲、MP伸展/屈曲、指外転/内転)
22	MMT(母指MPおよびIP屈曲/伸展、外転/内転、対立)
23	MMT (肩甲骨外転と上方回旋、肩甲骨挙上、肩甲骨内転、肩甲骨内転と下方回旋)
24	MMT(二関節筋の説明、股関節屈曲、屈曲-外転-外旋-膝屈曲)
25	MMT(股関節伸展、外転、屈曲位からの外転、内転)
26	MMT(股関節外旋/内旋、膝屈曲/伸展)
27	MMT(足関節底屈、背屈と内がえし、内がえし、底屈を伴う外がえし)
28	MMT(頭部伸展、頸部伸展、頭部屈曲、頸部屈曲、頸部回旋)
29	MMT(体幹伸展(腰椎・胸椎)、骨盤挙上、体幹屈曲/回旋)
30	まとめ・小テスト(MMT)
評価方法	実技試験100% ※小テスト6割未満の場合は課題提出
自由記述 (メッセージ)	授業毎に提示する動画を事前学習して授業に臨んで下さい。この科目で教える内容は身体機能評価の中で、最も行う頻度が多い技術であり国家試験に頻出します。 しっかり身につけましょう。 *スケジュールは進行の都合上で前後する場合があります。

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	臨床作業療法演習 I		必修	1年前期	20コマ・40時間
担当教員	佐々木康友	背景	作業療法士歴18年		
授業形態	実習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール+実習着ルール				
受講条件	学校のルールを遵守し、コロナ感染症等に関する感染予防対策が十分に行えること。				
教科書等	特になし				
<p>授業概要</p> <p>3日間、作業療法の臨床現場に出向き作業療法士の指導の下、検査・観察・面接の一部を体験する。リハビリテーションの各領域の現状を学習する。</p>					
<p>狙いと到達目標</p> <p>作業療法臨床の現状への理解と見聞を深める。作業療法士の働きと対象疾患、作業療法で用いられる活動・道具への関心を高める。</p>					
<p>授業において実務経験をどのように生かすか</p> <p>臨床での指導経験を生かす。</p>					
授業計画・内容					
1	<p>実習前オリエンテーション</p> <p>施設および作業療法室についてのオリエンテーションを受け、作業療法(士)の役割、作業活動の使い方、道具の使い方などに触れる。作業療法士の介入場面、対象者の観察を行い、記録する。許される範囲内で対象者に触れる機会(身障領域においてはROMT,MMT他の一部実施、精神領域においては対象者の状況に応じた適切な交流や面接等)を持ち、記録する。また、自宅での予習・復習等を行う時間も含む。</p>				
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
評価方法	臨床作業療法演習チェックリスト、セミナー発表等				
自由記述 (メッセージ)	学生、社会人としてのマナー・態度に十分留意して実習に臨むこと。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	作業学		必修	2年前期	10コマ・20時間
担当教員	加藤 和貴・温井恵・山下久美子		背景	作業療法士23年目	
授業形態	講義・演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	日常生活における作業を意識しておく				
教科書等	ひとと作業・作業活動 新版 三輪書店 参考書:「作業」って何だろう 第二版 作業科学入門 医歯薬出版株式会社 ゴールド・マスター・テキスト 作業学 改定第2版 メジカルビュー社				
<p>授業概要 基礎作業学で学んだ作業活動の治療的応用についての学びをより深め、作業分析を試み考察する。</p> <p>狙いと到達目標 基礎作業学での学びを基に作業の特性について考え、その意味性について説明できる作業について分析を行い考察ができる。</p> <p>授業において実務経験をどのように生かすか 作業療法において対象者を作業的存在としてとらえる大切さを実務経験から学んだ。作業療法の視点で作業を捉える要点を提示していく。</p>					
授業計画・内容					
1	作業療法における作業				
2	作業分析の理論				
3	各論 精神領域① 精神領域における作業				
4	各論 精神領域② 限定的作業分析				
5	各論 発達領域 発達領域における作業 (温井)				
6	各論 身体領域① 身体領域における作業(山下)				
7	各論 身体領域② 限定的作業分析(山下)				
8	包括的作業分析 分析				
9	包括的作業分析 発表				
10	理論・作業分析振り返り まとめ				
評価方法	レポート(50%)・筆記テスト(50%)を併せて評価する				
自由記述 (メッセージ)	作業療法を勉強して一年が経ちました。暮らしの中での様々な営みを「作業」として捉えることができているでしょうか。この講義では基礎作業学での学びを礎に、実際に作業分析を行い理解を深めていきます。身近な事柄から般化し、作業療法士としての視点について考えていきます。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	身体障害作業療法評価学		必修	2年前期	10コマ・20時間
担当教員	山下久美子 竹本龍太	背景	作業療法士歴 17年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準作業療法学専門分野 作業療法評価学第3版(医学書院) 新・徒手筋肉検査法原著第10版(協同医書出版社) 参考書:病気が見える Vol.7 脳・神経 第2版(メディックメディア)				
授業概要 各評価・検査を行う意義、具体的な実施方法を学ぶ。					
狙いと到達目標 ①各評価・検査を行う意義を説明できる ②各評価の手順をリスク管理も交えながら説明できる ③正常画像と異常画像の鑑別が出来るようになる					
授業において実務経験をどのように生かすか 実際に評価を行う際の配慮や、教科書の知識に留まらない臨床での応用などを伝えられる。					
授業計画・内容					
1	オリエンテーション・評価学の基礎				
2	感覚検査				
3	反射検査				
4	姿勢反射検査				
5	脳神経検査				
6	画像評価①				
7	画像評価②				
8	脊髄損傷・上肢の末梢神経障害の評価				
9	関節リウマチおよびその類縁疾患の評価				
10	その他の疾患の評価				
評価方法	授業内提出レポート20%、定期筆記試験80%の配分とする。 上記を合算し、60%以上を合格とする。				
自由記述 (メッセージ)	臨床現場において必須の知識となりますので、実習に臨む上でしっかり知識、検査方法の正しい手技を身に付けてもらいたと思います。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科																																																														
授業名,属性	精神障害作業療法評価学		必修	2年前期	20コマ・40時間																																																												
担当教員	加藤 和貴	背景	作業療法士	23年目																																																													
授業形態	講義・演習	実務家教員 である																																																															
受講ルール	共通ルール																																																																
受講条件	特になし																																																																
教科書等	教科書: ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学、第3版 メジカルビュー社 精神疾患の理解と精神科作業療法 朝田隆 他 中央法規出版 参考書: 精神障害と作業療法 山根寛 三輪書店																																																																
<p>授業概要 精神領域における評価の視点を学び、それらを統合し全体像をとらえ考察を行う。</p> <p>狙いと到達目標 精神障害領域における作業療法評価の基礎を学び、それを説明できる。 対象者を広い視野で共感的に理解する態度を養う。</p> <p>授業において実務経験をどのように生かすか 対象者について評価を行う上で、教科書に書かれている基本的な視点を実際に援用する際の要点について伝え、得られた結果から妥当性のある考察に辿りつく思考を養う。</p> <p>授業計画・内容</p> <table border="1"> <tr><td>1</td><td>授業概要 授業の流れを理解できる</td><td>他者評価の前に行うべきことを考える</td></tr> <tr><td>2</td><td>精神科評価の特徴を説明できる</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>観察の概要を学び実施する①</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>観察の概要を学び実施する②</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>面接の概要を学び実施できる</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>情報収集の概要を説明できる</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>精神機能の概要を説明できる</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>身体機能の概要を説明できる</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td>集団と場について説明できる</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td>コミュニケーションの概要を説明できる</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td>防衛機制・欲求の階層について説明できる</td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td>日常生活能力・社会生活能力について説明できる</td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td>課題遂行能力・職業関連能力について説明できる</td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td>全体像と考察を説明できる。事例を通し作業療法評価の基礎を確認する。</td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td>CMOP 評価の流れについて確認する</td><td></td></tr> <tr><td>16</td><td>面接練習を行う①</td><td></td></tr> <tr><td>17</td><td>面接練習を行う②</td><td></td></tr> <tr><td>18</td><td>評価のまとめ ①</td><td></td></tr> <tr><td>19</td><td>評価のまとめ ②</td><td></td></tr> <tr><td>20</td><td>質疑応答 振り返り</td><td></td></tr> </table> <p>評価方法 筆記試験</p> <p>自由記述 (メッセージ) 「他者を評価する」この言葉から受ける印象はいかがでしょう。ある人は傲慢な印象を抱くかもしれません。しかし評価することなしに焦点を絞った援助はできません。病的側面だけを見て悪く評価をすることが誤りであることはもちろん、過剰に良く評価しすぎることも対象者の可能性を狭める可能性があります。適正な評価のためにも、まずは自分を客観的に捉えてみましょう。スタートラインは「自分と向き合うこと」です。</p>						1	授業概要 授業の流れを理解できる	他者評価の前に行うべきことを考える	2	精神科評価の特徴を説明できる		3	観察の概要を学び実施する①		4	観察の概要を学び実施する②		5	面接の概要を学び実施できる		6	情報収集の概要を説明できる		7	精神機能の概要を説明できる		8	身体機能の概要を説明できる		9	集団と場について説明できる		10	コミュニケーションの概要を説明できる		11	防衛機制・欲求の階層について説明できる		12	日常生活能力・社会生活能力について説明できる		13	課題遂行能力・職業関連能力について説明できる		14	全体像と考察を説明できる。事例を通し作業療法評価の基礎を確認する。		15	CMOP 評価の流れについて確認する		16	面接練習を行う①		17	面接練習を行う②		18	評価のまとめ ①		19	評価のまとめ ②		20	質疑応答 振り返り	
1	授業概要 授業の流れを理解できる	他者評価の前に行うべきことを考える																																																															
2	精神科評価の特徴を説明できる																																																																
3	観察の概要を学び実施する①																																																																
4	観察の概要を学び実施する②																																																																
5	面接の概要を学び実施できる																																																																
6	情報収集の概要を説明できる																																																																
7	精神機能の概要を説明できる																																																																
8	身体機能の概要を説明できる																																																																
9	集団と場について説明できる																																																																
10	コミュニケーションの概要を説明できる																																																																
11	防衛機制・欲求の階層について説明できる																																																																
12	日常生活能力・社会生活能力について説明できる																																																																
13	課題遂行能力・職業関連能力について説明できる																																																																
14	全体像と考察を説明できる。事例を通し作業療法評価の基礎を確認する。																																																																
15	CMOP 評価の流れについて確認する																																																																
16	面接練習を行う①																																																																
17	面接練習を行う②																																																																
18	評価のまとめ ①																																																																
19	評価のまとめ ②																																																																
20	質疑応答 振り返り																																																																

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	発達障害作業療法評価学	必修	2年前期	10コマ・20時間	
担当教員	温井 恵	背景	作業療法士歴20年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール+実習着ルール(動きやすい服装で可)				
受講条件	事前課題に取り組んだうえで参加すること				
教科書等	発達障害の作業療法 基礎編・実践編 第3版 三輪書店 イラストでわかる発達障害の作業療法 医歯薬出版株式会社				
<p>授業概要</p> <p>発達のみずきを読み取るためには運動、感覚、認知、社会的機能の正常発達を理解する事が重要である。正常発達を理解した上で、子供のライフステージに必要な能力や環境設定を観察から読み取り、標準化された検査と併せて支援計画立案に結びつけていく。</p>					
<p>狙いと到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正常発達を正しく理解し、時系列的なつながりについて説明が出来る。 ・観察から対象児のおおよその発育年齢(粗大運動・認知機能)を推察出来る。 ・対象児・者および家族の支援計画立案のため、必要な情報を収集、整理して全体像を把握し、説明することができる。 					
<p>授業において実務経験をどのように生かすか</p> <p>発達障害作業療法分野において、作業療法士は多くの役割りを担っている。発達のみずきに対してのアプローチだけでなく、将来を見据えての役割の構築と社会への参加を意識した関わりが求められるため、本講での学びをベースに、実技にて問題点を把握するための評価視点を養い、実務に生かしていく。</p>					
授業計画・内容					
1	発達障害領域における作業療法評価とは				
2	正常発達の理解①				
3	正常発達の理解②				
4	感覚と感覚統合				
5	認知機能の評価				
6	手の発達と評価				
7	口腔機能と身辺処理(ADL)の評価				
8	社会的機能の評価				
9	遊びの発達と評価				
10	観察と問題点の整理				
評価方法	提出課題+小テスト+定期試験(試験時のテキスト、資料の持ち込みは不可とする) 小テストの再試は定期試験再試期間にその範囲を含める				
自由記述 (メッセージ)	本講は人間がどのように成長・発達し社会生活が営めるまでになるかを発達学的、神経心理学的に学ぶものである。人や自分自身に対して興味を持ち、お互いを尊ぶ気持ちを持って臨み、作業療法士を志す学生としてどのような援助につなげていきたいかをイメージし、学びとしてほしい。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	必修	2年 前期	15コマ・30時間	
担当教員	竹本龍太(山下久美子)	背景	作業療法士歴 11年		
授業形態	実技	実務家教員 である。			
受講ルール	共通ルール・実習着ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	作業療法評価学 第3版(医学書院) 参考書:病気が見える Vol.7 脳・神経 第2版(メディックメディア)				
授業概要 身体機能領域における作業療法評価学とそれらを用いた臨床推論(クリニカルリーズニング)を動画予習による反転授業、学生2~3人1組の実技形式中心で学ぶ。 後半は症例を通してジグソー形式のグループディスカッションで評価計画を立てレポートの作成と発表を行う。					
狙いと到達目標 「治療」を実践するために、対象者の心身の状態と治療計画が適切に関係づけられることが重要である。 ・各種疾患に罹患した対象者の評価項目を選択できる。 ・各種評価の判定を正しく行える。 ・対象者に評価の方法、目的、結果をわかりやすく伝えられる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 病院(身体障害領域)での回復期、急性期、生活期の作業療法経験から各疾患、各病期での評価方法を事例を通して伝えていく。					
授業計画・内容					
1	表在感覚検査(痛覚、温度覚、触覚、二点識別覚)				
2	深部感覚検査(運動位置覚、関節定位覚)				
3	協調性検査(上肢、下肢、立位、歩行、SARA)				
4					
5	筋緊張の評価				
6	脳血管障害の評価 (Brunnstrom Recovery Stage、上田による片麻痺機能テスト、SIASなど)				
7					
8					
9	上肢機能検査(STEF、MFTなど)				
10					
11	【グループワーク】 評価計画立案/レポート作成				
12					
13	発表・振り返り				
14					
15					
評価方法	評価計画(レポート・発表)40%、実技試験60% ※評価計画(レポート・発表)が6割未満の場合は課題提出 ※実技試験が6割未満の場合は教育的再試 ※総合得点で不合格の場合は実技試験で再試				
自由記述 (メッセージ)	授業毎に提示する動画を事前学習して授業に臨んで下さい。この科目は2年生後期、3年生の臨床実習において必要となる知識、技術が詰まっています。ひいては作業療法士として必須の評価です。わからないことはそのままにせず、気軽に教員に尋ねて下さい。 *スケジュールは進行の都合上で前後する場合があります。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学		
授業名,属性	身体障害作業治療学Ⅰ		必修	2年前期	10コマ・20時間
担当教員	温井恵	背景	作業療法士歴20年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版(医学書院)				
授業概要	<p>作業療法における基本的な治療手技・原理について、目的・方法などを学ぶ。また、SOAP(問題志向型記録)での記録方法を学び、MTDLP(生活行為向上マネジメント)のツールを用いて全体像を整理する。</p>				
狙いと到達目標	<p>評価と治療の繋がりを踏まえた上で、作業療法における基本的な治療手技・原理について理解し、適した物を選択し、説明することができる。SOAP(問題志向型記録)について説明し、記載することができ、MTDLP(生活行為向上マネジメント)を用いてICF分類を行い全体像を捉えることができる。</p>				
授業において実務経験をどのように生かすか	<p>治療理論だけでなく、臨床で経験した事例の情報を提示しながら進めていく。</p>				
授業計画・内容					
1	オリエンテーション・身体機能作業療法学の基礎				
2	リスク管理 ボディメカニクス				
3	運動制御理論と運動学習				
4	関節可動域訓練・筋力増強訓練				
5	筋緊張異常とその治療				
6	不随運動・協調運動障害とその治療				
7	感覚知覚再教育				
8	廃用症候群とその治療・物理療法の基礎				
9	作業療法の治療記録の書き方(SOAP)				
10	全体像の理解 ～MTDLP演習 ICF分類～				
評価方法	授業内提出課題+単元が終わる毎の小テスト+定期試験(試験時のテキスト、資料の持ち込みは不可とする)小テストの再試は定期試験再試期間にその範囲を含める				
自由記述 (メッセージ)	この授業で基礎的な治療手技・原理を理解し、疾患ごとの治療法の理解(身体障害作業治療学Ⅱ)、実技(身体障害作業治療学実習)へと発展させていって欲しい。また、SOAPとMTDLPの演習を行うことで臨床実習にて必要な記録面へも発展させていくことを期待する。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	身体障害作業治療学Ⅱ		必修	2年後期	20コマ・40時間
担当教員	温井恵/竹本龍太/森田将健 /田中将人	背景	作業療法士歴20年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	解剖学、生理学、神経内科学、整形学の復習				
教科書等	ゴールドマスター・テキスト 身体障害作業療法学 改訂第3版 メジカルビュー社 医学書院 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版 医学書院 参考:病気が見える Vol.7 脳・神経 メディックメディア その他 適時資料配布				
<p>授業概要 身体障害領域における分野と対象疾患は年々拡がりを見せている。各疾患、障害の特性を理解した上で、作業療法の考え方と関わり方の違いによる具体的な治療・訓練方法を実践的に学ぶ。</p>					
<p>狙いと到達目標 ・身体障害領域の各種疾患に起因する機能障害を理解し、その障害の改善や生活機能障害の軽減方法を説明できる。 ・評価学、治療学Ⅰからの学びを基礎に症例毎の作業療法治療について説明でき、その疾患に起因したキーワードを想起できる。</p>					
<p>授業において実務経験をどのように生かすか 身体障害作業療法分野において、作業療法士は多くの役割りを担っており、年々その分野や範囲も広がっている。退院後の社会復帰や参加を意識した関わりが求められているため、本講での学びをベースに症例による違いやリスク面への配慮も含めて援助につながるよう実務へ生かしていく。また、実際に臨床で活躍するOTの講義を聞くことでより臨床をイメージできる構成とした。</p>					
<p>授業計画・内容 (授業の順番が変更になる場合があります)</p>					
1	身体障害領域における疾患別治療の実際				
2～3	脳血管疾患・頭部外傷				
4	頭部外傷				
5～6	頸髄損傷 頸椎症性脊髄症				
7～8	多発性硬化症,ギランバレー症候群,筋疾患(筋ジス, 筋炎,)重症筋無力症				
9～10	筋委縮性側索硬化症、パーキンソン病 脊髄小脳変性症脱髄性疾患				
11～12	関節リウマチ 手の骨折 腱板損傷 熱傷など				
13～14	手の末梢神経損傷・屈筋腱断損傷 他整形疾患	竹本龍太			
15～16	終末期の作業療法	田中将人(青梅慶友病院)			
17～18	呼吸器疾患 心臓疾患	森田将健 (NTT東日本関東病院)			
19～20	癌 その他内部疾患など				
評価方法	授業内提出課題・確認テスト+定期試験 (教科書、資料の持ち込みは不可) 確認テストの再試は定期試験再試期間に実施する				
自由記述 (メッセージ)	本講は身体障害分野において作業療法がどのように実践されているかを疾患毎に学ぶものである。年々分野の広がる身体障害分野においてどのような治療、援助が社会参加への手助けとなるか、外部講師からの臨床での症例なども聞くことが出来る構成となっているため、臨床を身近に感じながら意欲をもって参加してほしい。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	精神障害作業治療学Ⅰ		必修	2年前期	8コマ・16時間
担当教員	佐々木康友	背景	作業療法士歴18年		
授業形態	講義	実務家教員である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	教科書：精神障害と作業療法 山根寛 三輪書店 参考書：ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学、第3版 メジカルビュー社				
授業概要 講義を通じて、精神障害に対する概念の変遷と作業療法の理念を学び、精神科作業療法の基本的役割を理解する。精神科作業療法の治療構造について学び、作業療法実践の場がもつ特徴について理解を深める。					
狙いと到達目標 対象となる疾患・障害についての社会的・生物学的背景について理解を深め、精神科における作業療法の役割・実施形態・治療者のあり方などを知り、説明できる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 作業療法中の対象者のエピソードや、現場での気付き等を示すことを通して、作業の持っている力や効果、構造作りの大切さなどの理解が深まるように生かしていきたい。					
授業計画・内容					
1	ひとと病い				
2	精神の病と作業療法の歴史				
3	作業をもちいる療法の特性				
4	作業療法の治療・支援構造と治療機序①				
5	作業療法の治療・支援構造と治療機序②				
6	作業療法の手順①				
7	作業療法の手順②				
8	作業療法の実践				
評価方法	提出物30%、筆記試験70%で総合的に評価する				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	精神障害作業治療学Ⅱ		必修	2年後期	20コマ・40時間
担当教員	佐々木康友	背景	作業療法士歴18年		
授業形態	講義・グループワーク	実務家教員である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	教科書：精神障害と作業療法 山根寛 三輪書店 参考書：精神疾患の理解と精神科作業療法 朝田隆 他 中央法規出版 ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学、第3版 ミヅカルビュー社				
授業概要 講義を通じて、精神障害領域の代表的な疾患について、概要・実践される作業療法の特徴・禁忌事項等について説明する。また、MTDLPを用いた評価・治療課程についても、適宜紹介していく。					
狙いと到達目標 これまでに学んできた精神機能や精神医学の知見を総合することにより、精神科の代表的な疾患に必要な知識と技術を説明することができる。また、精神の病を持ちながら生活する人に対する理解を深め、自分なりに説明することができる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 実際の対象者さんの様子や、悩んでいること等の心の動きを紹介することで、疾患を持つ人という観点のみならず一人の人としての理解を深められるよう生かしていく。					
授業計画・内容					
1～5	統合失調症の作業療法				
6～8	気分障害の作業療法				
9～10	神経症圏の作業療法				
11～12	パーソナリティー障害の作業療法				
13～14	物質関連障害の作業療法				
15～16	摂食障害の作業療法				
17～18	発達障害の作業療法				
19	てんかんの作業療法				
20	まとめと補足				
評価方法	提出物30%、筆記試験70%で総合的に評価する				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	発達障害作業治療学 I		必修	2年前期	10コマ・20時間
担当教員	温井 恵/時増麻紀子	背景	作業療法士歴20年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール+実習着ルール(動きやすい服装で可)				
受講条件	事前課題に取り組んだうえで参加すること				
教科書等	発達障害の作業療法 基礎編・実践編 第3版 三輪書店 イラストでわかる発達障害の作業療法 医歯薬出版株式会社				
<p>授業概要</p> <p>発達障害作業療法評価学において学んだ知識を基盤とし、そこからの問題点把握、どのような援助方法、計画立案となるかにつなげていながら実際の治療方法に必要な基本的な考え、技法について理解する。また関わりの実際を知る事でより理解を深め、イメージ構築出来るような構成としている。</p>					
<p>狙いと到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障害作業療法においてどのような治療、援助方法があるか述べる事が出来る。 ・実技を通じて基本的な治療、援助方法について立案、実践することが出来る。 ・臨床での実践経験を知る事でリハビリテーションがどのように必要とされ実践されているかを知ることが出来る。 					
<p>授業において実務経験をどのように生かすか</p> <p>発達障害作業療法分野において、作業療法士は多くの役割りを担っている。発達のつまずきに対してのアプローチだけでなく、将来を見据えての役割の構築と社会への参加を意識した関わりが求められているため、本講での学びをベースに、実技にてどのような治療手段や技法があるかを考察し、実務へ生かしていく。</p>					
授業計画・内容 (授業の順番は変更になることがあります)					
1	発達障害領域における治療とは				
2	家族支援の実際				
3	姿勢コントロールへのアプローチ				
4	遊びを用いてのアプローチ(手の動き・認知機能)				
5	感覚統合理論に基づいたアプローチ(プランの立案)				
6	感覚統合理論に基づいたアプローチ(実践)				
7	知的障害・コミュニケーションに対するアプローチ				
8	身辺処理(ADL)能力獲得についてのアプローチ				
9	重症心身障害児のリハビリテーションの実際			訪問看護ステーション ベビーシーズ 時増麻紀子	
10	訪問リハビリテーションの実際				
評価方法	提出課題・確認テスト+筆記試験(教科書、資料などの持ち込みは不可) 確認テストの再試は定期試験後の再試期間にて実施				
自由記述 (メッセージ)	本講は発達障害分野において作業療法がどのように実践されているかを学ぶものである。発達障害分野においてどのような治療、援助が社会参加への手助けとなるか、作業療法士としての役割意識だけでなく、環境や社会が行っていくべき課題にも興味を持ち、取り組んでほしい。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	発達障害作業治療学Ⅱ		必修	2年後期	20コマ・40時間
担当教員	温井恵・飛田孝行		背景	作業療法士歴20年	
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール+実習着ルール(動きやすい服装で可)				
受講条件	事前課題に取り組んだうえで参加すること				
教科書等	発達障害の作業療法 基礎編・実践編 第3版 三輪書店 イラストでわかる発達障害の作業療法 医歯薬出版株式会社				
授業概要 発達障害領域の作業療法の考え方と疾患、障害の違いによる、具体的な治療・訓練—方法、援助方法を事例や画像を利用しながら実践的に学ぶ。					
狙いと到達目標 ・発達障害領域の各種疾患に起因する機能障害を理解し、その障害の改善や生活機能障害の軽減方法を説明できる。 ・評価学、治療学Ⅰからの学びを基礎にして症例毎の作業療法治療について説明できる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 発達障害作業療法分野において、作業療法士は多くの役割りを担っている。発達のつまずきに対してのアプローチだけでなく、将来を見据えての役割の構築と社会への参加を意識した関わりが求められているため、本講での学びをベースに、症例による違いやリスク面への配慮も含めて社会参加への援助につながるよう実務へ生かしていく。					
授業計画・内容 (授業の順番は変更にあることがあります)					
1	発達障害領域における疾患別治療の実際				
2～3	脳性麻痺(脳血管疾患、脳外傷、脳炎、脳外科疾患など) 症例のまとめ(MTDLP)				
4～5					
6～7	重症心身障害・医療的ケアの必要な子供に対して				
8～9	神経・筋疾患				
10～11	分娩麻痺・骨・関節疾患				
12	染色体異常(ダウン症など)				
13～14	知的障害			飛田孝行 (東京小児療育病院)	
15～16	自閉症スペクトラム				
17～18	注意欠陥多動性障害 学習障害など				
19～20	症例検討(MTDLP)				
評価方法	課題提出・確認テスト+定期試験(教科書、資料の持ち込みは不可) 確認テストの再試は定期試験再試期間に実施				
自由記述 (メッセージ)	本講は発達障害分野において作業療法がどのように実践されているかを疾患毎に学ぶものである。発達障害分野においてどのような治療、援助が社会参加への手助けとなるか、外部講師からの臨床での症例なども聞くことが出来る構成となっているため、臨床を身近に感じながらより意欲をもって参加してほしい。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	老年期障害作業治療学		必修	2年前期	10コマ・20時間
担当教員	中村 由美	背景	作業療法士歴15年		
授業形態	講義・グループワーク	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準作業療法学 高齢期作業療法学 第3版 医学書院				
授業概要 高齢者に対する作業療法を実践できるようになるために高齢者の特徴や取り巻く環境を踏まえた作業療法を理解する。					
狙いと到達目標 ①高齢社会と高齢期の課題について説明できる。 ②高齢者の特徴と高齢期に多い疾患を説明できる。 ③高齢者に対する作業療法の過程を説明できる。 ④認知症の定義と分類、代表疾患とその症状を理解できる。 ⑤認知症高齢者に対する作業療法の在り方を理解できる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 高齢者の特徴や作業療法について説明する際、実務で経験したことを事例として紹介することで理解を深める手助けとする。					
授業計画・内容					
1	・授業全体の目標確認と評価方法を理解し説明できる。 ・高齢社会を考える。 ・高齢期の課題を理解できる。				
2	高齢者の特徴(老化・老年症候群)				
3	高齢期に多い疾患				
4	認知症の概要(定義・分類・症状・代表疾患)				
5	高齢者作業療法の実践の流れ (高齢者の人権と尊厳・生活の見方・評価・目標設定・治療)				
6	病期・時期に応じた作業療法				
7	認知症の作業療法(1)				
8	認知症の作業療法(2)				
9	ケーススタディー				
10	高齢者の作業療法のまとめ				
評価方法	筆記試験80% 提出物(全10回)20%				
自由記述 (メッセージ)	・教科書第3章の事例は読んでおくこと。 参考図書: 認知症を持つ人への作業療法アプローチ 改訂第2版 メジカルビュー社				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	高次神経障害作業治療学		必修	2年前期	10コマ・20時間
担当教員	温井恵	背景	作業療法士歴20年目		
授業形態	講義	実務家教員である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	脳解剖学の理解と支配領野の役割を理解しておくこと				
教科書等	メディックメディア 病気がみえる⑦脳・神経 第2版 標準作業療法学 高次脳機能作業療法学				
<p>授業概要 高次神経障害を理解する上で基礎となる脳の機能解剖、灌流域、機能局在について改め理解し、画像診断を行う。また、人間の認知的側面の発達知識と併せながら、高次神経障害を理解する。各障害の評価方法と評価の持つ特性を理解し、高次神経障害患者に対しての作業療法的介入について学習する。</p>					
<p>狙いと到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・脳の機能解剖、灌流域、機能局在について説明することができる ・高次神経障害の概念、症状を列挙することができる ・高次神経障害の日常生活場面での困難さについて推察し適切な評価を選択、実施することができる ・高次神経障害の作業療法介入原則を説明することができる </p>					
<p>授業において実務経験をどのように生かすか 高次神経障害を理解する上で重要となる解剖、画像診断の理解は臨床現場において必須であり、また障害部位から日常生活への影響を推察することは作業療法士に求められる知識である。臨床現場においてはその障害は多様であるが、基本的な知識を身につける事で臨床業務に生かしていく。</p>					
授業計画・内容					
1	高次神経機能障害とは				
2	脳画像の解読と解釈(CT・MRIの特性と理解)				
3	注意障害の作業療法 評価と治療				
4	記憶障害の作業療法 評価と治療				
5	失語症の作業療法 評価と治療				
6	失行症の作業療法 評価と治療				
7	失認の作業療法 評価と治療				
8	半側空間無視(USN)の作業療法 評価と治療				
9	遂行機能障害・社会的行動障害の作業療法 評価と治療				
10	統括 画像診断～評価・治療のまとめ(症例:MTDLP)				
評価方法	提出課題・確認テスト+筆記試験(教科書、資料の持ち込みは不可)確認テストの再試は定期試験再試期間に実施				
自由記述 (メッセージ)	日常生活、社会復帰支援に対して積極的に関わるべき作業療法士として高次脳機能面の評価、治療は重要な視点であり、作業療法士が率先して担うべき範囲である。発達学的な視点からも理解していく事で幅広い分野で応用出来る為、意欲を持って学ぶ姿勢を期待する。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	身体障害作業治療学実習		必修	2年通年	30コマ・60時間
担当教員	中村由美	背景	作業療法士歴15年		
授業形態	実技	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	実習着着用				
教科書等	標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版 医学書院 ゴールドマスター・テキスト 身体障害作業療法学 第2版				
授業概要 身体障害作業療法を実践できるようになるために、身体機能障害の治療原理を理解し治療が行えるようになる。					
狙いと到達目標 ①各治療主義の基礎知識(治療の目的・障害の原因・治療主義・留意点)を説明できる。 ②各治療主義の主たる手技を実施できる。 ③事例を通して臨床像と身体機能をとらえ適切な評価、治療を考案、実施できる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 臨床での経験を生かして実技指導を行う。					
授業計画・内容					
1	オリエンテーション・身体運動の基礎				
2・3	関節可動域訓練				
4	筋力・筋持久力訓練				
5	筋緊張異常の治療・協調性訓練				
6・7	感覚障害の治療・上肢機能訓練				
8	バランス訓練(立位・座位)				
9～12	事例検討				
13・14	呼吸リハビリテーション(武藤先生)				
実技試験					
15	当事者実習オリエンテーション(目的と方法・関わり方、触り方の基本・リスク管理等)				
16	情報収集のための準備				
17・18	【当事者】 情報収集				
19・20	評価計画と評価練習				
21・22	【当事者】 評価1				
23・24	【当事者】 評価2				
25・26	評価のまとめ・治療プログラム立案				
27	治療練習				
28・29	【当事者】 治療				
30	まとめ(グループごとに資料作成)				
評価方法	実技試験 50%・当事者実習 50%				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	精神障害作業治療学実習		必修	2年後期	30コマ・60時間
担当教員	加藤和貴	背景	作業療法士 23年目		
授業形態	講義・演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	教科書: ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学、第3版 メジカルビュー社 精神疾患の理解と精神科作業療法 朝田隆 他 中央法規出版 参考書: 精神障害と作業療法 山根寛 三輪書店				
授業概要 実際に行われている評価法やプログラムを演習する中で、その運営や適切な態度・行動・関係・役割を学ぶ。					
狙いと到達目標 治療を進める上で求められることを、精神障害作業療法評価学・治療学で学んだ知識・技術に基づいて具体的かつ体験的に理解する。併せて学生自身の自己理解を深め、意識的に自己の治療的活用ができる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 職務を遂行する上で最も有益だったのは当事者、先人たちから学んだ経験知である。そして対象者について考える上で作業的存在としてとらえる大切さを実務経験から学んだ。それらを踏まえ作業療法の視点で捉える要素や要点を提示していきたい。					
授業計画・内容					
1	授業概要、身につけておくべき知識の確認 ロジャーズ 援助者の条件を学ぶ				
2	アロマセラピープログラム				
3	COPMを理解する				
4	COPMを実施する				
5	観察と記録、書き方のコツ				
6	記録の振り返り				
7	インテーク面接の目的・流れを理解する				
8	ヘルピングスキルを学ぶ				
9	構成的作業面接(箱作り方)概要を知る				
10	構成的作業面接(箱作り方)を実施する				
11	治療的コミュニケーションを学ぶ				
12	レクリエーションの概要と準備				
13	SSTの理論的背景・技法を学ぶ				
14	SSTを実施する				
15	各班毎にレクリエーションを実施①				
16	各班毎にレクリエーションを実施②				
17	レクリエーションを振り返り集団因子を理解する				

18	就労の概要を知る 働くことについて考える
19	ケーススタディー
20	ケーススタディー
21	当事者講演 多摩棕櫚亭協会
22	当事者講演振り返り
23	ワークショップ 絵本作り①を体験する
24	ワークショップ 絵本作り②を体験する
25	クライシスについて考える
26	癒しの技法(リラクゼーション、タクティールケア)
27	学びを深める①
28	学びを深める②
29	振り返り・質疑応答
30	実習に向けた 質疑
評価方法	レポート(40%)・筆記テスト(60%)を併せて評価する
自由記述 (メッセージ)	精神科で行われている作業療法の一部を体験し、その治療構造への理解を深めることで、明確な意図を持って対象者と関わっていけることを目指します。行う作業活動の何が楽しく何が大変なのか。意味は何なのか。様々な演習を通して実感してほしいと思います。

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	日常生活活動援助学		必修	2年前期	15コマ・30時間
担当教員	竹本龍太 中村由美	背景	作業療法士歴11年		
授業形態	講義	実務家教員である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト ADL・実習 中山書店				
授業概要 作業療法士として日常生活活動(以下ADL)に関する指導・援助ができるように、日常生活活動の動作を評価・理解し、支援方法を学ぶ。また、事前課題をベースにグループディスカッション等を行う。前半は主に健常者の生活行為の特性について学び、後半は各種疾患に応じた介入方法を「日常生活活動援助学実習」と合わせて学んでいく。					
狙いと到達目標 ADLの概念と範囲を学び、それらに対する基本的な評価と支援が理解できる。 ①ADLの概念と範囲について説明できる。 ②ADLの評価について理解しBarthel Index(以下BI)、Functional Independence Measure(以下FIM)を使用して評価ができる。 ③生活行為、各種疾患(中枢神経疾患、整形疾患)に応じた支援について自助具の用途を含め理解し説明できる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 病院(身体障害領域)での回復期、急性期、生活期の作業療法経験から教科書的知識と臨床現場での実践を加え伝えていく。					
授業計画・内容					
1	ADL総論				
2	ADLの評価(BI・FIM 他)				
3	FIMの概要の把握と実際の判定基準				
4	姿勢・起居移動・床上動作				
5	移乗				
6	移動動作(車椅子・歩行動作・歩行補助具)				
7	食事動作				
8	更衣・整容動作				
9	排泄動作				
10	入浴動作				
11	家事動作(調理・掃除・洗濯・育児)				
12	外出・自動車運転(乗降)・余暇活動				
13	疾患別支援(中枢神経・内科疾患・難病)				
14	疾患別支援(整形外科疾患)				
15	まとめ				
評価方法	筆記試験80% 事前課題20%				
自由記述 (メッセージ)	参考文献: ADLとその周辺 第3版 医学書院 長崎重信(2016)作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 日常生活活動学(ADL)				

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名・属性	日常生活活動援助学実習		必修	2年通年	30コマ・60時間
担当教員	中村由美 竹本龍太 他		背景	作業療法士歴15年	
授業形態	実技	実務家教員 である			
受講ルール	実習着着用				
受講条件	特になし				
教科書等	15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト ADL・実習 中山書店				
授業概要	<p>作業療法士として日常生活活動(以下ADL)に関する指導・援助ができるように各種疾患についてのADL上の問題と指導・援助方法を習得する。</p>				
狙いと到達目標	<p>福祉用具や環境に依存しない基本的な動作だけでなく、福祉用具や環境がADLにどのような影響を及ぼすかを理解することを目標とする。また、動作の理解をADL指導につなげるため、障害別支援や実習をとおして実際の現場で用いられている指導方法について学ぶ。</p> <p>①ADLの特徴、実施方法について理解し説明できる。 ②各疾患のADL上の問題を想起、説明できる。 ③各種疾患の特徴を踏まえ主たるADL障害に対する指導・援助方法を実習を通して修得する。</p>				
授業において実務経験をどのように生かすか	<p>臨床での経験を生かし実技指導を行う。</p>				
授業計画・内容					
1	ADLを含めたMTDLP概要				
2	寝返り、起居動作の確認と介入方法				
3	姿勢保持・立ち上がりの確認と介入方法				
4	移乗動作の確認と介入方法				
5	移動動作(車いす・杖歩行・階段昇降)の確認と介入方法				
6	食事動作の確認と介入方法				
7	更衣・整容動作の確認と介入方法				
8	排泄動作の確認と介入方法				
9	入浴動作の確認と介入方法				
10	家事動作(調理)の確認と介入方法				
11	家事動作(掃除・洗濯)の確認と介入方法				
12	外出動作の確認と介入方法				
13	脊髄損傷のADL障害とその指導				
14	脳血管障害のADL障害とその指導	寝返り・ポジショニング			
15		起居動作			
16		起立・移乗			
17		食事			
18		排泄			
19		更衣			
20		入浴			
21	事例別介入方法実技練習				
22	事例別介入方法実技練習				
23-26	喀痰・吸引技術(倉持)	喀痰・吸引の基礎知識			
27-30	自助具作成(上原)	<p>○各疾患と自助具の適応について整理できる ○自助具を作成する ○症例検討にて自助具作成のアイデアを話し合う</p>			
評価方法	実技試験70% 喀痰・吸引/自助具レポート各15%				
自由記述(メッセージ)	<p>参考文献: ADLとその周辺 第3版 医学書院 長崎重信(2016)作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 日常生活活動学(ADL)</p>				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	義肢装具学		必修	2年後期	15コマ・30時間
担当教員	笹尾久美子・阿部幸一郎 佐々木亮平	背景	笹尾、阿部 作業療法士 佐々木 理学療法士		
授業形態	講義・実技	実務家教員である			
受講ルール	共通ルール＋実習着ルール				
受講条件	特記なし				
教科書等	大庭潤平編著「義肢装具と作業療法 評価から実践まで」医歯薬出版株式会社 2017.				
授業概要 1.対象者の障害に応じた下肢装具・義足の活用方法を知るために、構造や適合を理解する 2.臨床で下肢装具・義足を活用するために、下肢装具や義足体験をする					
狙いと到達目標 1.義肢装具療法における療法士の役割を述べることができる 2.義肢装具療法の目的を述べるができる 3.義肢装具療法の適合判定を記載できる 4.ドレッシング方法を体験し、ドレッシング方法を説明できる 5.下肢装具の装着体験を通じて、下肢装具のメリットとデメリットを述べる事ができる					
授業において実務経験をどのように生かすか 当科目は佐々木亮平(理学療法士)が担当しその実務経験を授業内容において、より臨床的な内容になるように生かす					
授業計画・内容					
1	講義 下肢装具・下肢義足 総論～下肢装具各論(目的、適応、構成要素)-佐々木				
2	講義 下肢装具各論(短下肢装具・長下肢装具)-佐々木				
3	実技 下肢装具と体幹装具体験-佐々木				
4	講義 義足各論(切断原因、切断部位と義足、断端ケア、義足の構造)-佐々木				
5	実技 下肢切断のリハビリテーション(良肢位、ソフトドレッシング)-佐々木				
6	講義 上肢装具の適用と切断肢評価-笹尾				
7	講義 義手の構造と分類-笹尾				
8	講義 義手のチェックアウト-笹尾				
9	講義 義手装着訓練と日常生活への適応-笹尾				
10	講義 各疾患と装具(スプリント)の適合①-笹尾				
11	講義 各疾患と装具(スプリント)の適合②-笹尾				
12	演習 スプリントの作製①-阿部				
13	演習 スプリントの作製②-阿部				
14	演習 スプリントの作製③-阿部				
15	演習 スプリントの作製④-阿部				
評価方法	期末筆記試験(笹尾40点 佐々木30点 阿部30点満点) 再試験該当者は各担当の合計点数の6割に満たなかったものとする。 トータルでは合格だが、それぞれの担当において6割に満たなかった試験に関しては「教育的再試」として実施する予定である。				
自由記述 (メッセージ)	上肢装具や義手に比べて関りが薄くなりやすい下肢装具と義足ですが、臨床現場にでると一人の医療従事者として、またセラピストとして知っておくべき内容になっています。是非臨床に出たときに下肢装具・義足で困らないよう意識して講義・体験実技に臨んで欲しいと思います。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	作業療法研究法 I		必修	2年後期	8コマ・16時間
担当教員	芳賀孝志	背景	企業研修及び専門学校の講師の経歴		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	作業療法士のための研究法入門 著者名:鎌倉 矩子 他 出版社:三輪書店				
<p>授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の一連の流れを理解する。 ・文献レビューの方法を学び、実際にテーマに沿った文献検索をしたり、文献の批判的な読み方などを学ぶ。 ・研究法Ⅱで行いたい研究テーマ(仮)を決定し、研究計画作成の練習をする。 					
<p>狙いと到達目標</p> <p>作業療法の研究のやり方について、一連の流れを理解し、研究に必要な基礎知識・技術・態度を身につける。</p>					
<p>授業において実務経験をどのように生かすか</p> <p>複数の企業での職務経歴や、様々な業種の顧客企業へのサービス提供における関連経験を基に、事例を活用しながら、学生の理解を促進する。</p>					
授業計画・内容					
1	研究とは	研究の意義、研究疑問と研究の様式、研究の倫理			
2	研究計画書の作り方1	一般的な研究計画書の作り方、研究の倫理等			
3	文献レビュー1	文献レビューの目的、探し方、読み方、書き方			
4	文献レビュー2	文献カードの作成の練習、文献レビューの実例の確認			
5	研究の種類と論文校正1	文献研究、調査研究			
6	研究の種類と論文校正2	文献カードを基に、文献レビューのまとめを作成			
7	文献レビュー3	自分のテーマについての文献カード、文献レビューの発表			
8	研究計画書の作り方2	研究計画書の進捗の発表等			
評価方法	出席・ミニテスト・文献のまとめ・研究計画書				
自由記述 (メッセージ)	研究法は、難解な勉強と恐れている人が多いと思います。しかし、研究者の誰もが、はじめは同じ不安を抱いていたことでしょう。そして、どんな研究者も、基礎から研究法の学習を始めたはずですので、みなさんも恐れる必要はありません。みなさんが、追究したいテーマを研究するために、楽しく一緒に学んでいきましょう。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	臨床作業療法演習Ⅱ		必修	2年前後期	20コマ・40時間
担当教員	山下 久美子	背景	作業療法士歴17年目		
授業形態	演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	特になし				
授業概要 臨床実習Ⅰでは、作業療法士の指導のもと見学、観察、面接、評価を実施し、対象者の全体像を作り上げ、作業療法の介入について、レジュメにまとめて発表することで学びを深める事が主旨である。それに向けて、知識、技術、技能、情報の整理、統合、問題点の焦点化のスキルを会得する事を目的とする。					
狙いと到達目標 作業療法士として求められる医療的知識、専門的知識、技能面の会得を目指して練習に取り組める。実習現場で具体的な手順や動きを理解し行動出来る。必要な情報を収集・統合などが出来る。適宜教員に対し報告・相談することが出来る。					
授業において実務経験をどのように生かすか 臨床現場での作業療法士には、知識、技術の他、対象者の様々な情報・評価結果を統合し、問題点の焦点化、対象者に適したアプローチを立案するといった、様々な知識、スキルが求められる。これらについて自身の臨床経験より指導をおこなっていく。					
授業計画・内容					
1	オリエンテーション・朝学習 (Monoxer)について				
2	評価 実技練習 等				
3					
4					
5	臨床見学実習 関連 (実習先について調べる・持参書類作成・発表資料作成)				
6	HCR 発表資料まとめ				
7	当事者の情報、評価の結果をまとめる 評価実技練習				
8					
9					
10					
11	ADL関連 実技練習				
12					
13					
14	臨床実習Ⅰ-1、Ⅰ-2 関連 (実習先について調べる・実習システム登録・書類作成)				
15					
16					
17	臨床実習Ⅰ-1、Ⅰ-2 OSCE練習				
18					
19					
20					
評価方法	各授業出席後、リフレクションシート提出にて評定します。				
自由記述 (メッセージ)	臨床実習は、今まで授業で習った事の全て(知識、技術等)が求められます。臨床実習は、多くの学生が不安に感じるようです。その不安を軽減させるためにも、知識、技術等をより身に着けて実習に臨んでもらいたいと考えておりますので、積極的に授業に臨んでください。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	地域作業療法学 I		必修	2年後期	10コマ・20時間
担当教員	中村由美	背景	作業療法士歴15年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準作業療法学 地域作業療法学 第4版 医学書院 事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 第2版 医歯薬出版(第6回・7回)				
授業概要 地域作業療法に関わる諸制度や他職種連携、生活モデル視点での評価・プログラム立案・実践過程を学ぶ。また、実践事例から地域作業療法の理解を深める。					
狙いと到達目標 一般目標:地域作業療法を実施するために必要な諸制度との関わりや他職種連携を基盤に、生活モデル視点での評価・プログラム立案・実践過程を理解できる。 行動目標: ①地域作業療法の基盤となる制度や施策を理解し説明できる。 ②様々な事例を通して地域作業療法における作業療法士の活動内容と役割を説明できる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 病院での外来リハ、老健での通所リハ、訪問リハの経験から、学生が地域生活者の生活モデルをイメージできるよう具体例を示すことができる。					
授業計画・内容					
1	地域作業療法の基盤と背景 (P3-31)				
2	地域作業療法を支える制度・施策 (P39-65)				
3	社会支援と多職種連携 (P66-89)				
4	地域作業療法の評価 (P95-122)				
5	支援プログラムとマネジメント (P123-136)				
6	生活行為向上マネジメント (P136-148)				
7					
8	実践事例1 病院(身体機能) (P176-181)				
9	実践事例2 通所リハビリテーション (P210-216)				
10	実践事例3 訪問リハビリテーション (P217-224)				
評価方法	筆記試験80% 提出物(全10回)20% * 筆記試験は教科書・資料・ノート持ち込み可。				
自由記述 (メッセージ)	対応する教科書のページを示しています。目を通してから授業に参加してください。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	環境整備論		必修	2年後期	15コマ・24時間
担当教員	山下久美子・温井恵	背景	作業療法士歴12年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準作業療法学 地域作業療法学 第3版 医学書院				
授業概要 作業療法士において環境因子への関心は必須であり、対象の方の利点を最大限に生かすために欠かせないアプローチ方法の一つでもある。様々な疾患の状態像に合った用具の選定においては疾患の知識に加えて用具の特性を把握しておくことも同じように重要である。また、住宅改修においては対象の方の状態に合わせて住環境を整えていく必要もあり、作業療法士だけではアプローチできない場合もある。福祉用具も同様だが、他職種との情報や目標の共有が必要であり、この共有のプロセスにも触れ、学習していく。					
狙いと到達目標 一般目標： 環境整備についての基本知識と適合技術の習得ができる 行動目標： ①環境を整備する意義を説明できる ②疾患の特性と環境の特性を整理できる ③建築関係の基本的知識を想起できる ④住宅改修の事例にて対象者と住宅改修のマッチングについて判定できる					
授業において実務経験をどのように生かすか 訪問作業療法に携わる中で、建築関係、福祉用具関係の職種と関わる機会を多く持つことができた。適合における多職種への配慮や連携の取り方についても伝えることができる。					
授業計画・内容					
1	生活上における福祉用具の役割				
2	ベッド・床上動作関連				
3	移乗関連				
4	移動関連				
5	食事関連				
6	整容関連				
7	更衣関連				
8	入浴関連				
9	排泄関連				
10	コミュニケーション・環境制御装置関連				
11	住宅改修の基礎知識				
12	国際福祉機器展 参加				
13					
14					
15					
評価方法	筆記試験100%				
自由記述 (メッセージ)	参考書:OT・PTのための住環境整備論 第2版 三輪書店 国際福祉機器展へ参加する予定である。その後の振り返りを授業内に入れるため、項目が前後する可能性がある。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	環境整備論		必修	2年後期	15コマ・30時間
担当教員	山下久美子・金子大輔 船谷俊彰	背景	作業療法士歴17年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	クリニカル作業療法シリーズ 福祉用具・住環境整備の作業療法				
授業概要 作業療法において環境因子を考慮することは必須であり、対象の方の利点を最大限に生かすために欠かせないアプローチ方法の一つでもある。用具の選定において、疾患、症状の知識に加えて用具の特性を把握しておくことも同じように重要である。また、住宅改修においては住環境を整えていく必要もあり、作業療法士だけではアプローチできない場合もある。福祉用具も同様だが、他職種との情報や目標の共有が必要であり、この共有のプロセスにも触れ、学習していく。					
狙いと到達目標 一般目標： 環境整備についての基本知識と適合技術の習得ができる 行動目標： ①環境を整備する意義を説明できる ②症状の特性と環境の特性を整理できる ③建築関係の基本的知識を想起できる ④住宅改修の事例にて対象者と住宅改修のマッチングについて判定できる					
授業において実務経験をどのように生かすか 難病疾患の利用者が多い訪問看護ステーションで勤務した際、福祉用具の選定や住宅改修に関わった経験より、自身が実際に関わってうまくいった例、失敗した例なども挙げて講義していく。					
授業計画・内容					
1	生活上における福祉用具の役割				
2	ベッド・床上動作関連				
3	移乗関連				
4	移動関連				
5	コミュニケーション・環境制御装置関連				
6	入浴関連(金子先生)				
7	移動関連(金子先生)				
8	排泄関連(金子先生)				
9	住宅改修の基礎知識(船谷先生)				
10					
11	国際福祉機器展 オリエンテーション				
12	国際福祉機器展 参加				
13					
14	国際福祉機器展 振り返り(レポート作成、グループ発表)				
15					
評価方法	筆記試験80%とレポート20%で評価する。 筆記試験とレポートの合算し、60%を合格とする。				
自由記述 (メッセージ)	参考書:OT・PTのための住環境整備論 第2版 三輪書店 国際福祉機器展へ参加する予定である。その後、振り返りをおこなうため項目が前後する可能性がある。				

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	臨床実習 I-1及び I-2(評価実習 I/II)		必修	2年後期	(135時間)×2期
担当教員	山下久美子 他	背景	作業療法士歴17年		
授業形態	臨床実習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール+実習着ルール				
受講条件	感染対策の徹底+基礎知識が身につけていること+個人情報の保護(SNS等での拡散禁止)				
教科書等	全教科				
<p>授業概要</p> <p>医療機関、関連施設にて3週間の実習を2か所でおこなう。学内では、予習として知識・技能の確認のため筆記試験、Objective Structured Clinical Examination(以下OSCE)を行う。臨地実習では、基本的に見学・模倣・実施による診療参加型実習を行い、得られた情報を整理、統合、対象者の全体像を把握する。復習としてデイリーノートやケースレポートの作成と、実習後学内セミナーにて作業療法実践の発表を行う。</p>					
<p>狙いと到達目標</p> <p>臨床実習指導者の指導・監督の基で、典型的な障害特性を呈する対象者に対し</p> <ol style="list-style-type: none"> ①評価実習を通じて作業療法士の役割と基本的態度、多職種の役割を学ぶ。 ②作業療法士を目指す学生としての基本的態度を身につける。 ③対象者の改善課題整理と目標設定、必要なプログラム立案ができるように評価能力を身につける。 					
<p>授業において実務経験をどのように生かすか</p> <p>臨床における実習生指導の経験を生かし、実りのある実習にするための指導を行う。</p>					
授業計画・内容					
【実習前学内】×2					
	実習オリエンテーション				
	筆記試験				
	OSCE				
【臨床実習(3週間)】×2期					
	施設概要/作業療法士の1日の動き方を把握する				
	当該施設の作業療法士の基本的態度、評価/治療場面の見学、模倣、実施				
	評価に関する情報収集				
	対象者の評価・治療目標設定				
	対象者の治療計画の立案				
	デイリーノート・ケースレポート作成				
【実習後学内】×2					
	セミナー発表				
評価方法	実習地評価(指導者評価) 担当教員評価(実習出席状況、筆記試験、OSCE)で総合判定				
自由記述 (メッセージ)	実習前・実習中は感染対策に注意してください。しっかりと再学習をして、授業で伝えた知識と技術を備えたうえで、常に疑問点を持ち臨床実習に臨んでもらいたいと思います。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	臨床見学実習		必修	2年前期	45時間
担当教員	山下久美子	背景	作業療法士 17年		
授業形態	実習	実務家教員である			
受講ルール	共通ルール+実習着ルール				
受講条件	感染対策の徹底+基礎知識が身についていること+個人情報の保護(SNS等での拡散禁止)				
教科書等	全教科				
授業概要	<p>作業療法士は、病院、施設等にとどまらず地域へと活躍の場を広げている。5日間の臨床見学、体験を通じて、地域包括ケアシステムにおける通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションの役割を学び、その中での作業療法士の役割と基本的態度、多職種の役割を学ぶ。</p>				
狙いと到達目標	<p>①地域包括ケアシステムにおける通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションの役割を学び、地域作業療法の理解と見聞を深める。 ②地域で活躍している職種についても学び、多職種の役割について理解を深める。 ③社会人としての基本的態度を身に着ける。</p>				
授業において実務経験をどのように生かすか	<p>訪問看護ステーションに勤務した経験をふまえ、病院と地域の違いである「生活の場」を理解できるように指導していく。</p>				
授業計画・内容	【実習前学内】				
	実習オリエンテーション				
	【臨床実習(5日間)】				
	地域リハビリテーションについてのオリエンテーションを受け、地域包括ケアシステムにおける施設等の役割について理解をする。				
	地域リハビリテーションにおける作業療法(士)の役割、作業活動の使い方などを見学し、理解する。				
	作業療法士の介入場面、対象者の観察を行い、記録する。				
	許される範囲内で対象者に触れる機会(対象者の状況に応じた適切な交流や面接等)を持ち、記録する。				
	臨床見学実習を通じて、地域包括ケアシステムでの多職種の役割を理解する。				
	指導者、対象者に実習の御礼を伝え、チェックリストの記録を依頼する。				
	【実習後学内】				
	セミナー発表 実習での学びや気づきをまとめ、専門用語を用いて時間内で発表する。実習評価について振り返り、指導を受ける。				
評価方法	実習施設からの評価と学内評価(実習オリエンテーション、セミナー発表等)で総合的に判定する。				
自由記述(メッセージ)	作業療法士は対象者の生活を支援する専門家であるという視点で、臨床現場にて学んでください。				

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	一般臨床医学Ⅱ	必修	3年後期	20コマ・40時間	
担当教員	山、水野、成田、加藤、温井	背景			
授業形態	講義、グループワーク	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	基礎となる解剖、生理学の理解と各種疾患学				
教科書等	随時資料配布				
<p>授業概要</p> <p>臨床に出るにあたって必要となる薬学、NST、画像診断に関して実践的な学びを深め、臨床教育に活かしていく。また、臨床現場にて活躍されている臨床家からの話を通してよりその具体性を高め、実践につなげる。</p>					
<p>狙いと到達目標</p> <p>各臨床科目の特徴を理解し、臨床場面にてどのように活かしていくか説明出来る。</p>					
<p>授業において実務経験をどのように生かすか</p> <p>臨床経験での症例や自身の体験および社会的関心の高い事象を織り込みながら、授業を展開していく。それにより、受講生が具体的にイメージしながら、主体的に授業に臨めるようにしていきたい。</p>					
<p>授業計画・内容</p>					
1・2	リハビリテーションにおける薬学 水野				
3～12	臨床医学の基礎と実践 山				
13・14	栄養リハビリテーション学 成田				
15・16	画像診断とその評価 温井				
17～20	精神科における薬学 加藤				
評価方法	授業ごとの課題提出、確認テストにより理解度を見ていき、総合的に評価する。				
自由記述 (メッセージ)	本授業は最終学年におけるの学びであるため、より臨床を意識し、今後の実習や臨床現場へつながる学びとなるよう、意欲的に取り組んでほしい。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	作業療法管理学		必修	3年前期	15コマ・30時間
担当教員	加藤和貴 他	背景	作業療法士歴 23年目		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準作業療法学 作業療法概論 第4版 医学書院				
授業概要	<p>職業人として活動するための基本的態度の習得、医療技術系専門職としてのチームワークに必要な基本的態度の習得、作業療法士として必要な管理運営に関する基本知識の習得を図る。また現場で活躍している現役の作業療法士の話聞き、管理の実際についての理解を深める。</p>				
狙いと到達目標	<p>組織における管理運営に関する基礎知識を習得する。 医療現場で働く作業療法士として自身や環境に対してのリスク管理を学び、実習やその後の臨床場面においても実践が出来る。</p>				
授業において実務経験をどのように生かすか	<p>管理運営者によって職場のスタッフの勤労意欲は高まることも低くなることも経験している。この講義の受講者は卒後まずは被管理者の立場である。作業療法は実学であるため有用となる内容を提供したい。</p>				
授業計画・内容					
1	マネジメント・管理者・リーダーシップ	加藤			
2	日常業務と記録・リスク管理・感染対策				
3	作業療法教育(実習指導・新人教育・研修・研究)				
4	回復期病院 管理・運営	ねりま健育会病院			
5	病院における管理運営	二瓶太志先生			
6	多様な働き方①	作業療法士			
7		三宅円夏先生			
8	就労移行支援 施設管理・運営	フェルデンクライスジャーニー			
9		石田耕一先生			
10	事業経営管理	(株)ステディーリンク グループホームリックス 石黒武先生			
11	会社(起業)における管理運営				
12	急性期病院 管理・運営	NTT東日本関東病院			
13	病院における管理運営	森田将健先生			
14	多様な働き方②	作業療法士			
15		稲毛礼子先生			
評価方法	振り返りシート テスト				
自由記述 (メッセージ)	<p>マネジメントを自分の目線で考えてもらうことから始め、現場での経験豊富な講師による経験知を学べるこの講義は、10年後20年後のみなさん自身に最も関係する講義とも言えます。また感染対策を始めとするリスク管理についても学びます。</p>				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	職業関連活動援助学		必修	3年前期	10コマ・20時間
担当教員	加藤和貴	背景	作業療法士 23年目		
授業形態	講義・見学	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	特になし				
<p>授業概要</p> <p>「人と職業」について考え、障害を持つ人の就労の現状と作業療法の関わりを知り、援助のための知識・技術を学ぶ。</p>					
<p>狙いと到達目標</p> <p>人にとっての職業の意義を考え、障害を持つ人へもその保障をするべく、作業療法士としてどのような側面に援助したらよいかを考える。また職業リハビリテーションの現場訪問により、作業療法士の役割を考え、実際的なアプローチ方法を学び、臨床で生かせるようにする。</p>					
<p>授業において実務経験をどのように生かすか</p> <p>現場での障害者就労支援援助の経験をふまえ、対象者にとっての職業の精神心理的意味や、利用できる制度などを具体的場面に沿って伝えていく。</p>					
授業計画・内容					
1	働くとはどういうことか				
2	働く先にあるもの				
3	支援の実際				
4	国の制度、施設について				
5	作業療法士としての関わり				
6	就労支援施設見学				
7	見学振り返り				
8	支援の実際 生活の基盤を支える				
9	国立障害者リハビリテーションセンター 安部先生				
10	職業リハビリテーションの評価 まとめ				
評価方法	テスト				
自由記述 (メッセージ)	<p>あなたにとって「働く」ということはどんな意味を持つのでしょうか？ 何のために働くのか。誰のために働くのか。そして何故働くのか。そして我々はど ういった視点で援助していくのか。働くことの意味を考えながら、実際の施設を見 学し、また第一線で生活を支える支援者からお話を伺い、改めて「働く」ということ について考えてみたいと思います。</p>				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	作業療法研究法Ⅱ		必修	3年前期	8コマ 16時間
担当教員	加藤和貴	背景	作業療法士 23年目		
授業形態	講義	実務家教員である			
受講ルール	特になし				
受講条件	特になし				
教科書等	標準作業療法学 作業療法評価学 医学書院				
授業概要 作業療法評価や治療について確認し臨床現場で使えるよう目的や具体的方法の理解を深める。					
狙いと到達目標 研究を行う上で基礎となる作業療法評価・治療についてその目的や実施方法を説明できる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 意味のある介入を行うためには一つの方法論(評価検査)ではなく、目的を踏まえつつ選択肢は多く用意する意義について伝えることができる。					
授業計画・内容					
1	オリエンテーション、評価・治療 概論				
2	精神領域 評価法				
3	治療法				
4	身体領域 評価法				
5	治療法				
6	発達領域 評価法 治療法				
7	高齢者領域 評価法 治療法				
8	まとめ				
評価方法	試験				
自由記述 (メッセージ)	対象となる方に適した評価を行うことが作業療法の第一歩となります。 各授業で触れた評価法や治療法を確認し理解を深め、実習や卒後の研究活動に活かせるようにしておきましょう。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	臨床作業療法演習Ⅲ		必修	3年通年	15コマ・30時間
担当教員	温井恵 竹本龍太	背景	作業療法士歴20年		
授業形態	演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	実習に必要な知識技能の予習、OSCE実施までの練習時間、その他最終学年として必要となる就職関連の意識を持って参加するように。				
教科書等	なし				
授業概要 臨床総合実習に行くための知識技能における準備と実技練習及び最終学年と必要となる就職関連の準備活動に用い、臨床へのイメージ構築、課題に向けて準備していく内容を見直し、実践していく。					
狙いと到達目標 作業療法士として求められる医療的知識、専門的知識を基に対象者の状態像を知識、技能面の習得を目指して練習に取り組める。就職へのイメージを構築し、具体的な手順や動きを理解し行動出来る。適宜必要な情報を収集し、報告・相談することが出来る。					
授業において実務経験をどのように生かすか OSCEを通じて知識技能を実践的なレベルでイメージし、実技場面で活かす。また自己に合った就職イメージを持ち、今後の臨床現場で働く素地を作る事が出来る。					
授業計画・内容					
1	オリエンテーション 1年間の過ごし方・就職活動の進め方				
2・3	実習前試験・実習前技能OSCE準備・練習				
4・5	実習後試験・実習後技能OSCE準備・練習				
6	就職ガイダンス				
7・8	実習前試験・実習前技能OSCE準備・練習				
9・10	実習後試験・実習後技能OSCE準備・練習				
11～14	就職説明会(jobcafe)				
15	就職面接練習会				
評価方法	授業出席後リフレクションシート提出・就職説明会報告書・面接練習振り返りシート				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名・属性	地域作業療法学Ⅱ		必修	3年前期	15コマ・30時間
担当教員	中村由美他	背景	作業療法士歴15年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準作業療法学 地域作業療法学 第4版 医学書院 事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 第2版 医歯薬出版				
授業概要 生活行為向上マネジメント(MTDLP)の演習を通じて、障害を持つあらゆる人々が住み慣れた地域で生活するため、特に地域包括ケアシステムに資する「活動と参加」への具体的な支援を学習する。					
狙いと到達目標 一般目標：地域作業療法を実施するために、生活行為向上マネジメントツールを用いて、生活モデル視点での評価・プログラム立案・実践過程を理解できる。 行動目標： ①地域作業療法の概念を理解し説明できる。 ②ICFの概念により地域生活障害者の生活構造を図式的に説明できる。 ③具体的な事例を通してMTDLPのプロセスを理解しシートを使用できるようになる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 病院での外来リハ、老健での通所リハ、訪問リハの経験から、学生が地域生活者の生活モデルをイメージできるよう具体例を示すことができる。					
授業計画・内容					
1	ICFの概念				
2	生活行為向上マネジメント(以下MTDLP)概要：背景・プロセス 背景16-19 学術的背景27-31 生活行為と生活行為の障害31-37 プロセス40-44				
3	MTDLP：情報収集(生活行為聞きとりシート・興味関心チェックリスト)				
4	聞き取り44-48 興味関心49-50				
5	MTDLP：アセスメント講義・演習(アセスメント演習シート・生活行為課題分析シート)				
6	アセスメント50-54 課題分析54-57				
7	MTDLP：プラン講義・演習(プラン演習シート)				
8	演習プラン57-60				
9	事例検討(MTDLPシート・ICFシートの作成)				
10					
11					
12					
13	プラン発表				
14	特別講演「精神障害者の地域生活支援の実践事例(復職支援・スポーツ)」 東京リワークセンター 佐藤 俊之先生				
15					
評価方法	MTDLPシート(生活行為聞き取りシート・ICFシート・アセスメント演習シート・プラン演習シート)の提出 特別講演振り返りシート100% * ルーブリックにより採点します。 * 提出日は掲示板にて掲示します。				
自由記述 (メッセージ)					

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	臨床実習Ⅱ-1及びⅡ-2(総合実習Ⅰ/Ⅱ)		必修	3年前・後期	(360時間)×2期
担当教員	竹本龍太 他	背景	作業療法士歴11年		
授業形態	臨床実習	実務家教員 である			
受講ルール	実習着ルール				
受講条件	感染対策の遵守,個人情報の保護(SNS等での拡散禁止)				
教科書等	全教科				
授業概要 実習前学内では、予習として知識・技能の確認のため筆記試験、Objective Structured Clinical Examination(以下OSCE)を行う。臨地実習では、基本的に見学・模倣・実施による診療参加型実習を行う。復習としてデイリーノートやケースレポートの作成と、実習後学内セミナーにて作業療法実践の発表、実習後OSCEを行う。					
狙いと到達目標 臨床実習指導者の指導・監督の基で、典型的な障害特性を呈する対象者に対して ①総合実習を通じて作業療法士の役割と基本的態度、チームアプローチの実際を学ぶ。 ②作業療法士を目指す学生としての基本的態度を身につける。 ③対象者の改善課題整理と目標設定、必要なプログラム立案ができるように評価能力を身につける。 ④プログラム実施を通じて治療・指導・援助ができる技能を身につける。 ⑤プログラムの効果を判定する能力を身につける。					
授業において実務経験をどのように生かすか 臨床における実習生指導の経験を生かし、実りのある実習にするための指導を行う。					
授業計画・内容					
【実習前学内】×2					
	実習オリエンテーション・準備				
	筆記試験				
	実習前技能OSCE				
【臨床実習(8週間)】×2期					
	施設概要/作業療法士の1日の動き方を把握する				
	当該施設の作業療法士の基本的態度、評価/治療場面の見学、模倣、実施				
	評価に関する情報収集				
	対象者の評価・治療目標設定				
	対象者の治療計画の立案				
	対象者の再評価				
	デイリーノート・ケースレポート作成				
【実習後学内】×2					
	セミナー発表				
	実習後技能OSCE				
評価方法	実習地評価(指導者評価) 担当教員評価(実習出席状況、筆記試験、OSCE)で総合判定				
自由記述 (メッセージ)	実習前・実習中は感染対策を特に注意して行ってください。授業で伝えた知識と技術を備えたうえで、上記到達目標がより深いものとなります。しっかりと再学習をして総合実習に臨みましょう。				